

平成20年度岐阜県立瑞浪高等学校生徒及び保護者を対象とするアンケート集計結果

(対象 生徒)

分析と対応

教育方針・学校経営

〔分析〕

- 1 教育方針や教育目標、「一人一人の良さや可能性を伸ばすことに努めている」に関しては、理解がなされていない。
- 2 「本校を選んでよかった」「基本的なモラルやマナーを身につけさせよう」とつとめている」に関しては、過半数には達している。

〔対応〕

- 1 教育方針や教育目標を意識して学校生活をしている生徒は少ないと思われる。しかし、機会あるごとに話し説明する努力を怠るべきではない。
- 2 本校の教育方針を過半数の生徒が理解し、支持していると思われる。この点についても、積極的に指導（特に基本的なモラルやマナーについて）しても大きな反発はないと思われる。

家庭との連携

〔分析〕

- ・約6割の生徒が文書を家庭に届けている。また学校のことを話している。十分ではないかもしれないが、一般的な高校生の状況から推測するとまあ満足すべき数値ではないか。

教職員

〔分析〕

- ・「本校の先生は、悩みや相談等に親切に対応してくれる」ととらえている生徒は、約4割、わからないと回答している生徒は約3割。残念ではあるが、教育相談活動が生徒に十分意識されていないと思われる。

〔対応〕

- ・教育相談的活動が、十分とはいえないので広報活動を少しずつではあるが積み重ねていく。

学習指導

〔分析〕

- ・全体的に約半数の生徒が肯定的に捕らえている。しかし、「テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている」に関しては約4割の生徒が肯定的にとらえているに過ぎない。

〔対応〕

- ・評価の在り方・仕方について教員側で検討をして、生徒にわかる基準を示し意欲を高める方策を考える。

生徒指導

〔分析〕

- ・全体として本校の生徒指導が十分に理解されているとはいいがたいと思われる。しかしながら、Q16に関しては理解されている。もっと積極的に語りかけていくことが求められているのだろうか。

〔対応〕

- ・生徒にとって「理解」されているということは、どのようなことだろうか。人は「話を聞いてもらえたと感じるとき」理解されたと感じるといわれている。すなわち教育相談でいう「傾聴」がなされたとき、理解されたと感じるとしたら、日常の中で生徒に話し掛け、聞く機会を増やすことが必要ではないか。

進路指導

〔分析〕

- ・約半数しか進路指導活動が理解されていないのが残念である。

〔対応〕

- ・粘り強く生徒への進路指導と「話し合い」を続ける。

健康管理・安全指導

〔分析〕

- ・地震や台風などの対応についてはマニュアルを示しているが、生徒の意識の低さを克服できていない。

〔対応〕

- ・集会、避難訓練等での指導を多くする。

学校行事等

〔分析〕

- 1 文化祭、球技大会については肯定的である。好ましい姿勢である。
- 2 LHR、生徒会活動、清掃、学校の施設・設備については肯定的回答が少ない。

〔対応〕

- 1 さらに充実させるよう指導を続ける。
- 2 LHR:大変であるが、工夫・研修をする。
 生徒会活動：活発な生徒会活動を行う時間的余裕が失われている状況では、生徒全体の意欲を喚起し活発化することは難しいが、活発化を否定していいと思われるので、生徒の意見を取り入れた指導を図る。
 清掃活動：清掃時間だけではなく、授業時間等あらゆる機会をとらえて指導を行う。

学校独自問題

〔分析〕

- 1 生徒間同士の関係にはそれほど問題はなく、学校生活が楽しく、充実感を感じている生徒が多いことは好ましいことである。また、各学科の特色を出た教育が行われているととらえている。
- 2 挨拶については不十分と感じている。
- 3 目標を持った生活をしていないと感じている生徒が多く、人間としての生き方・在り方の指導を十分とはとらえていない生徒が多い。

〔対応〕

- 2 挨拶に関する今までの指導をさらに強力に行っていく。
- 3 LHR などを利用し、生き方・在り方、将来の夢等を語り合う機会を増やしていく。